

コミュニティスクール検討会 最終まとめ

～今後のコミュニティスクールの推進について～

令和6年11月

コミュニティスクール検討会

1. これまでの経緯と検討の目的

長野県教育委員会では、地域とともにある学校づくりを進めるため、平成25年度より信州型コミュニティスクールの導入を推進している。平成29年度には、すべての公立小・中・義務教育学校に信州型コミュニティスクールが導入された。

これによって「地域学校協働活動」が盛んになるなど一定の成果がある一方で、「学校運営参画」の視点では、学校からの要望に応じて地域が学校の支援をするに留まっているケースから、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して教育課程を実施したり、直接的に学校運営に参画したりするケースまで、その取り組みの程度に差が見受けられる。

また、コロナ禍による活動の減少や地域ボランティアの高齢化・固定化の進行など、今後の活動の持続への課題も生じている。

そこで、地域ごとに取り組みの程度に差が見受けられる「学校運営参画」を中心的なテーマに据えて、すでに全県的に広がりや深まりを見せている「地域学校協働活動」とのさらなる一体的推進や充実を図るために、コミュニティスクール(CS)に関係する方々による意見交換を行い、長野県におけるコミュニティスクールの今後の方向性を検討する。

2. 検討会の実施状況

(1) 実施経過

第1回 令和6年1月25日(木)

- ・学校運営参画とは(学校運営参画の実情)
- ・参画をどう進めていくか

第2回 令和6年3月7日(火)

- ・学校運営参画の意義について
- ・今後の学校と地域連携に求めること

第3回 令和6年5月7日(火)

- ・学校運営参画の充実を図る上での課題について
- ・地域と学校の連携・協働における段階について

第4回 令和6年7月10日(水)

- ・学校運営参画の推進のための支援について
- ・長野県におけるコミュニティスクールの方向性について

第5回 令和6年9月3日(火)

- ・まとめ

(2) 出席者 (※50音順・敬称略)

座長	早坂 淳	長野大学教授
メンバー	上沼 昭彦	飯田市公民館副館長
	河西 哲也	松本市立梓川中学校長
	塩原 雅由	大町市教育委員会
	城村 義人	長野県PTA連合会会長
	傳田 智子	上伊那広域連合地域振興課
	伴 美佐子	上田市立北小学校コーディネーター
	堀田 茂樹	松本市山辺中学校教頭

3. 主な内容

(1) なぜいま地域住民等による「学校運営参画」の充実が必要なのか

①地域住民等による学校運営参画とは

ア 家庭・地域・学校が目指す子ども像（ビジョン）を共有し、それぞれが教育の当事者として対等な関係（パートナーシップ）を構築し、学校に携わる多様な人たちが連携・協働して学校運営に主体的に参加すること。

②学校運営参画の意義

ア 地域住民にとっては、地域と学校がその価値観を共有し、熟慮と議論（熟議）を通じてともに変わることによって、「学校づくり」と「地域づくり」が相乗効果をもたらす。子どもの教育に当事者として関わることは、大人の自己肯定感や有用感の醸成にも寄与する。

イ 子どもにとっては、地域との関わりが自己有用感や自尊感情を高め、主体的に学校の在り方を考える機会となる。多くの大人とのつながりが非認知能力を向上させる。

ウ 学校にとっては、形式的な「参加」の段階では学校の負担感が強いが、対等な「参画」が進むと地域の当事者意識が向上し、負担感は充実感へと変わりうる。活動の有用感が更なる活動の意欲につながり、働き方改革にもつながっている。地域と学校の課題を共有することで、課題解決が促進される。

③学校運営参画の課題

ア 学校と地域の温度差や負担感、情報共有の難しさがある。「学校教育は学校のもの」という意識も顕在しているため、今後さらに、家庭・地域・学校が連携・協働して子どもを育てる意識への変化が求められる。

④学校運営参画の充実のポイント

ア 学校長の経営ビジョンを反映させた学校運営を進めるために、教職員とのコミュニケーションを活性化させる必要がある。教職員の負担感を充実感へ変え、参画意識を高めるためには、意識やモチベーションを高める取り組みや指導力の向上が重要となる。さらに、地域住民の

みならず、場合によっては、子どもたちの参画を促し、学校運営を持続可能なものにしていく必要もある。

また、関わる人々のコミュニケーションを重視し、共通のビジョンを持つことで、学校と地域の連携を強化し、コミュニティスクールの取組を進めることが重要である。

⑤学校と地域の連携・協働における段階とは

ア 誰もが最初から連携・協働のスペシャリストではない。地域と学校がゆっくりと歩み寄りながら連携・協働の絆を深めていくプロセスが重要である。地域や学校の進捗状況やスピード感によって、それぞれの異なる歩みや取り組みがあってもよい。

コミュニティスクールの良さは、多様な当事者やその考えが学校という一つの場に混ざり合うことであり、その進捗状況の可視化をして、各学校や地域が現在どのような状況にあり、どこに向かっていくべきかを理解することで、教育委員会等の適切な支援が提供されることを期待する。

⑥学校・地域でおこる変化とは

ア 地域とのつながりをつくる初期の段階では、つながり方やつなげてからの連携・協働の在り方は教職員にとって未知の世界である。この段階では地域とのつながりそのものが教職員の負担感として現れることがある。しかし、地域に認められながら子どもたちの目が輝く、学びが深まるといった成長を見ることで、教職員も充実感や有用感を得るようになる。充実感や有用感を得るようになると負担感は充実感へと変わるという見通しを持つことが重要である。子どもたちの成長や変化が、先生方の「負担感」を「充実感」に変える過程で、地域とのつながりの意味や意義が理解されるようになるだろう。

コミュニティスクールの進化には、当事者意識をもって継続的に関わる人たちの存在が不可欠である。その一方で、変化が激しく課題が複雑な現代社会においては、コミュニティスクールもまた変わり続ける必要がある。地域学校協働活動や学校運営参画が固定化・属人化してしまうとその持続可能性に困難が生じうる。継続的に関わる人たちの存在と同時に、常に新しい当事者を招き入れる仕組みや体制作りもまた必要となる。

(2) 長野県におけるコミュニティスクールの推進について

①今後推進していくためのポイント

ア 地域学校協働活動に視点を置いてみると、活動を行っていく過程では、課題や地域からの要望がたくさん出てくるが、それをみんなで解決していくことがポイントになる。また、教職員が学校運営委員会に参加し、互いに話し合うことで生まれたワクワク感や地域とのつながりを深めることが大切である。また、「子どもたちの必要感」と「地域の必要感」を重ねていくことで、子どもが地域から本気のフィードバックを受け、活動が回り始める。共有した必要感をもとに、様々なアイデアが提案され「子ども及び地域とともに創るカリキュラム」が実現できるようなる。

イ コミュニティスクールに関わる人たちに、教育を自分事として捉える意識を持ってもらう必要がある。この当事者意識の醸成には、これまで学校が占有してきた学校教育に係る権限の

一部を、地域住民等にも委譲することが有効であることがこれまでの研究によって示唆されている。学校運営協議会制度（国型コミュニティ・スクール）の導入はこれを可能にする一つの方策として考えられる。最初から完璧を目指すのではなく、地域と学校とがともに連携・協働して学校づくりや地域づくりに関わり合うプロセスが重要であり、各地域や学校に応じた多様な取り組みがあって良い。

ウ 学校教育は教師主導から、子どもたちの内発的な動機に基づく探究的な学びへと移行している。学校と地域との関係も「義務感」から「内発的で自律的な動機」を持ったつながりへと変わるべきである。コミュニティスクールは、教師や子どもたちのウェルビーイングを実感させる手段として有効であり、地域との「つながり」「有用感」「自律」を通じて、その実現が期待される。

②今後の長野県のコミュニティスクールに求められること

ア 今後、コミュニティスクールを推進していくためには、加速する少子化への対応や学習指導要領の円滑な実施、また、教員の働き方改革のための指導・運営体制の構築などの課題を解決していくことが不可避である。このためには、市町村教育委員会が教育改革を実施し「地域の学校」を確立する必要がある。

イ 学校は、学校長が学校内外に開かれたビジョンに基づいて引き続き学校づくりのリーダーとなり教職員の協力を促進し、教育活動を展開する協働の輪を拡大する必要がある。

ウ 子どもが学校づくりや授業づくりに参画する等の仕組みを整えることも有効である。

エ すべての学校が、同じような形で地域とともにある学校づくりを行うことが目的ではなく、常に進化し続けるコミュニティスクールであってほしい。そのためには、当事者意識の醸成、相互理解、支える仕組みの構築が重要であり、その在り方は地域ごと学校ごとの特色を生かす形で発展していくことが望ましい。地域ごと学校ごとの特色が生きることで、その地域や学校で成長する子どももまたその個性を生かして大いに成長することが期待できる。

オ 地域においては、コーディネーターの役割や継続性の担保が今後の課題である。

カ 教育は不易と流行を保ちながら時代に合わせて変わるべきであり、大人は変化を恐れず進む姿を子どもたちに見せなければならない。学校長の役割も重要である。校長は夢を語る存在でなければならない。その夢は小学生にも理解できる言葉であること。そうすることで協力者は確実に増えるだろう。

キ 教育は学校だけのものではなく、地域と分かち合うことで幸せを共有することが大切である。それは負担ではなく喜びである。このように、コミュニティスクールの推進には、地域との連携・協働を通じた絶えざる進化が不可欠である。